

はじめに

本面談報告書は、2010年2月、3月に男女共同参画推進室内 ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”による「女性教員面談」をもとに、実施方法及びその結果をまとめたものです。なお、一部の教員の方には予定の調整の結果、4月に実施となりましたことをここに申し添えます。

女性教員の皆様に協力いただきました結果、皆様の貴重なご意見をお聞きすることができ、また相談員が直接お目にかかる機会を頂戴できましたことに、心よりお礼を申し上げます。

今回頂戴した81名の皆様のご意見・ご要望等、貴重な声を生かしながら、これからも教職員お一人お一人のワークライフの充実を応援させていただけるよう相談室一同一生懸命努力して参る所存です。

今後とも、ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”の活動に、ご協力を頂けますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

平成22年6月
男女共同参画推進室内
ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”

相談員	沖永 友貴枝
	武 千晴
心理カウンセラー	八木 亜紀子

女性教員面談実施結果のまとめ

【目的】 男女共同参画推進の取り組みの一環として、女性教員が研究活動を継続するなかで生じる課題や諸問題等の現状について聞き取ること。

【対象】 女性教員（任期なし、任期付）計 267 名

【期間】 2010 年 2 月より 3 月、一部 4 月

【総括】

- 学内全女性教員の 81 名（30%）が面談に協力を表明し、71 名（26.6%）から実際に話を聴くことができた（表 1）。
- 面談参加者が最も多く語った事柄は、「職場環境」に関する内容で、次いで「研究・業務」、「自分」についてであった（図 1）。
- 研究活動を継続するに当たって生じた諸提案・要望等を、学内に反映するよう希望された案件が 4 項目（8 件）あった。
 - 1) 施設、設備等に関する要望
 - 2) 学内既存の委員会の内容に関する要望
 - 3) 学内の育児支援に関する要望
 - 4) 学内コミュニケーションの活性化に関する要望

表 1 面談に参加した女性教員の人数。数字は人数、（ ）内は全女性教員数に対する割合。

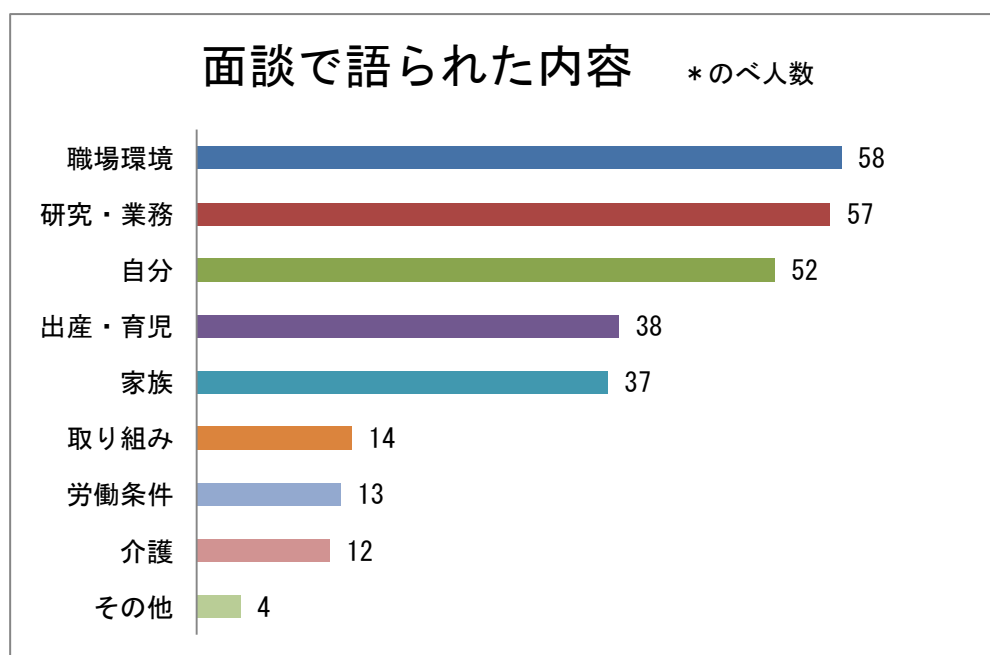
全女性教員数	返信 (回収率)	面談協力	面談済み	時期変更	非協力
267	109 (41%)	81 (30%)	71 (26.6%)	4 (1.5%)	28 (10%)

表 2 学内女性教員と面談参加者の年代別割合

（女性教員総数割合は 2009 年 11 月現在）

	学内女性教員数		面談参加女性教員数	
	人数	割合	人数	割合
20 代	6	2%	2	3%
30 代	79	30%	27	38%
40 代	110	41%	30	42%
50 代	63	24%	12	17%
60 代	9	3%	0	0%
合計	267(人)		71(人)	

図1 面談で語られた内容



面談に参加した教員（n=71）に研究活動を継続するなかで生じる課題や諸問題や、仕事（研究）と私生活の両立などについて振り返り、思いつく範囲で自由に語ってもらった後、相談員が内容を以下の項目に分類した。（図1）

なお、面接は半構造化面接方法を用い、面接者があらかじめ考えた項目の枠組みを維持しながら、面接の細部には柔軟な対応を持ち、回答や反応その他背後にあると思われる意図をより明確にするための質問などを加え、面談者に関する情報を収集した。

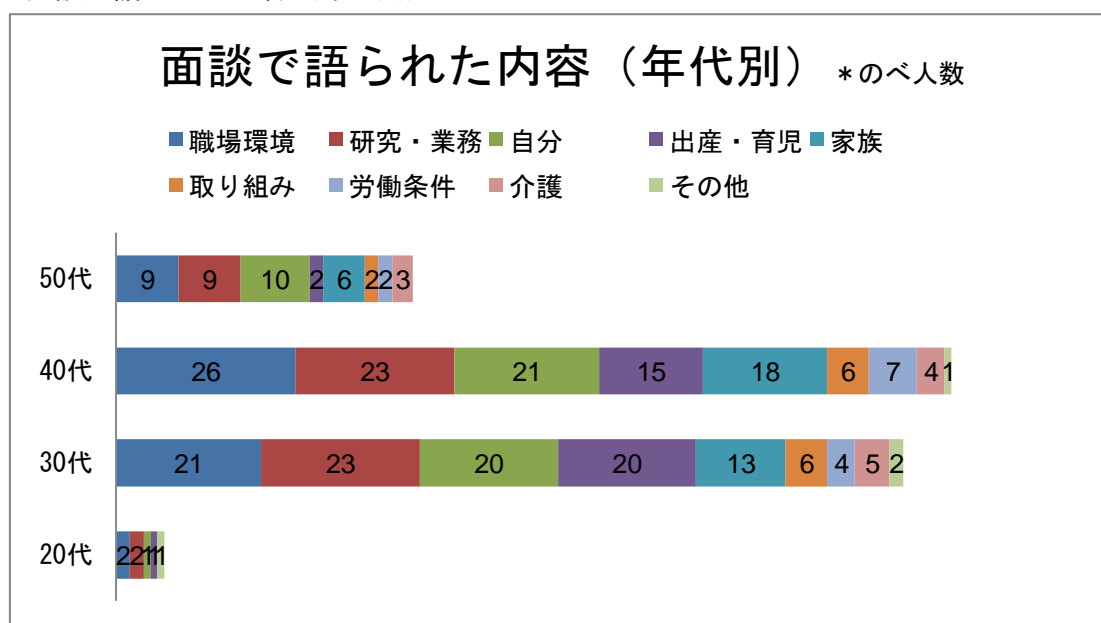
【結果】

面談参加者が最も多く語った事柄は、「職場環境」に関する内容で、次いで「研究・業務」、「自分」についてであった。

- 「職場環境」では、セキュリティの問題、設備の問題が指摘されたほか、職場の人間関係については、「自分は恵まれている」と話した方が多く、「負担である」と答えた人の数を上回った。その他に、就業時間外の会議への出席は、子育て中は難しい、子育てに理解を示さないコメントを言う同僚がいる、自分と同じ様に子育て中の人が周りには少ない、という意見もあった。
- 「研究・業務」では管掌に伴う業務により、研究活動に十分な時間が取れないジレンマや、業績評価の基準に対する指摘などがあった。
- 「自分」ではキャリアに関する問題や展望、自身の健康管理に関する考え、またコミュニケーションに関する課題、その他趣味や自身の性格などについて語られた。
- 「その他」を除き、語られることが少なかった事柄は、「介護」であった。これは面談者の多くは30、40代で、介護問題に直面している親を持つ年代ではないというこ

とが覗えた（図 2）。しかし介護は他の問題と異なり、改善の期待が乏しく、問題自体の継続性と深刻さを考慮すると、12 件という件数は組織の施策として検討するに値すると考えられる。その中でも、特に両親が遠方に住居しているため直接介護ができないことへの不安を感じている方には、具体的な施策に加えて、精神面での支援が必要であることが覗えた。

図 2 面談で語られた内容（年代別）



年代別に面談で語られた内容をまとめた（表 2）。

【結果】

- いずれの年代も「職場環境」と「研究・業務」について語ることが多かった。

【今後の活動計画】

- 学内に反映するよう希望された諸提案・要望等の案件のうち、東京キャンパスに関する施設・設備、およびセクハラ委員会に関する要望については、6 月 2 日に鈴木理事に報告し改善に向けてのご検討をお願いした。
- 学内既存の委員会の内容に関する要望で、セクハラ相談員を務める教員からの要望と提案についても、同上。
- 参加者には面談時に“あう”のサービスについて案内し、必要があれば利用いただくよう勧めた。
- 相談受付時に使用する聞き取り書式に「問題の種類」を取り入れ、標準化された問題把握のプロセスに今回の面談結果を反映させて、相談業務に活用する。